

四半期報告書

(第31期第3四半期)

自 平成21年10月1日

至 平成21年12月31日

福井コンピュータ株式会社

福井県福井市高木中央1丁目2501番地

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2

第2 事業の状況

1 生産、受注及び販売の状況	3
2 事業等のリスク	4
3 経営上の重要な契約等	4
4 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	5

第3 設備の状況

第4 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	8
(2) 新株予約権等の状況	8
(3) ライツプランの内容	8
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	8
(5) 大株主の状況	9
(6) 議決権の状況	9

2 株価の推移

3 役員の状況

第5 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	12
(2) 四半期連結損益計算書	14
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	16

2 その他

第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北陸財務局長
【提出日】	平成22年2月12日
【四半期会計期間】	第31期第3四半期（自平成21年10月1日至平成21年12月31日）
【会社名】	福井コンピュータ株式会社
【英訳名】	FUKUI COMPUTER, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小林 眞
【本店の所在の場所】	福井県福井市高木中央1丁目2501番地
【電話番号】	0776(53)9200(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 林 治克
【最寄りの連絡場所】	福井県福井市高木中央1丁目2501番地
【電話番号】	0776(53)9200(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 林 治克
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第30期 第3四半期連結 累計期間	第31期 第3四半期連結 累計期間	第30期 第3四半期連結 会計期間	第31期 第3四半期連結 会計期間	第30期
会計期間	自平成20年 4月1日 至平成20年 12月31日	自平成21年 4月1日 至平成21年 12月31日	自平成20年 10月1日 至平成20年 12月31日	自平成21年 10月1日 至平成21年 12月31日	自平成20年 4月1日 至平成21年 3月31日
売上高（百万円）	4,732	4,657	1,449	1,473	6,393
経常利益又は経常損失（△） （百万円）	△64	319	△123	33	△81
四半期純利益又は四半期（当期） 純損失（△）（百万円）	△256	125	△90	△3	△381
純資産額（百万円）	—	—	5,330	5,424	5,265
総資産額（百万円）	—	—	7,162	7,414	7,036
1株当たり純資産額（円）	—	—	463.96	470.17	458.36
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期（当期）純損失 金額（△）（円）	△20.56	10.94	△7.42	△0.32	△31.16
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—	—	—
自己資本比率（％）	—	—	74.4	72.9	74.8
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	230	582	—	—	196
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△184	174	—	—	△200
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△683	△35	—	—	△683
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	—	—	541	1,211	490
従業員数（人）	—	—	441	418	439

- （注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、連結子会社であった福申情報系統（上海）有限公司は当社が所有する持分をすべて売却したため、子会社ではなくなりました。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成21年12月31日現在

従業員数（人）	418（97）
---------	---------

（注） 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当第3四半期連結会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成21年12月31日現在

従業員数（人）	405（97）
---------	---------

（注） 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当第3四半期会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間の生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	前年同四半期比 (%)
建設業系CAD事業 (百万円)	1,136	105.4
建築CADソフトウェア (百万円)	608	106.8
測量CADソフトウェア (百万円)	280	94.4
土木CADソフトウェア (百万円)	246	117.1
ITソリューション事業 (百万円)	22	60.5
合計 (百万円)	1,159	102.8

(注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 商品仕入実績

当第3四半期連結会計期間の商品仕入実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	前年同四半期比 (%)
建設業系CAD事業 (百万円)	44	119.0
合計 (百万円)	44	119.0

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

当第3四半期連結会計期間における受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
ITソリューション事業	30	564.0	28	53.9
合計	30	564.0	28	53.9

(注) 1. 建設業系CAD事業は受注生産を行っていないため、該当事項はありません。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(4) 販売実績

当第3四半期連結会計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	前年同四半期比 (%)
建設業系CAD事業 (百万円)	1,448	104.8
建築CADソフトウェア (百万円)	730	108.7
測量CADソフトウェア (百万円)	295	90.7
土木CADソフトウェア (百万円)	271	117.6
サポートサービス (百万円)	106	98.0
ハードウェア他 (百万円)	45	100.2
ITソリューション事業 (百万円)	22	60.5
その他の事業 (百万円)	2	7.7
合計 (百万円)	1,473	101.7

(注) 1. 前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)
㈱リコー	216	14.9	229	15.6
㈱建築資料研究社	176	12.2	147	10.0

2. 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間におけるわが国の経済は、景気は持ち直してきていますが回復力に勢いが無い状況でありました。

このような経済状況のもとで、当社グループ（当社及び連結子会社）における当第3四半期連結会計期間の業績につきましては、売上高1,473百万円（前年同期比1.7%増）、営業利益22百万円（前年同期は営業損失120百万円）、経常利益33百万円（前年同期は経常損失123百万円）、四半期純損失3百万円（前年同期は四半期純損失90百万円）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

①建設業系CAD事業

建築CADソフトウェア

主力商品（3次元建築設計システム「ARCHITREND Z」）のバージョンアップ版及びビル系新商品（BIM建築設計システム「GLOOBE(グローブ)」）を発売し、販売重点を既存顧客においた営業活動を実施いたしました。この結果、建築CADソフトウェアの売上高は730百万円（前年同期比8.7%増）となりました。

測量CADソフトウェア

測量業向けに保守契約締結ユーザーに対し、オプションソフト購入の優遇策、土地家屋調査士業向けにオンライン申請用ソフトの体験会、セミナー等を全国で実施し拡販を図りましたが、新規住宅着工数の減少により特に土地家屋調査士業向けの売上が伸び悩みました。この結果、測量CADソフトウェアの売上高は295百万円（前年同期比9.3%減）となりました。

土木CADソフトウェア

主力商品である「EX-TREND 武蔵2010」を昨年10月に発売し、展示会やセミナーを積極的に実施、拡販を図りました。この結果、土木CADソフトウェアの売上高は271百万円（前年同期比17.6%増）となりました。

これらの要因により売上高1,448百万円（前年同期比4.8%増）、営業利益は140百万円（前年同期比88.2%増）となりました。

②ITソリューション事業

第45回衆議院議員総選挙の実績をもとに、報道機関向け出口調査システム「OneClickCounter」の提案・拡販を図りましたが、報道機関において広告需要の激減による経営環境の厳しさもあり、売上は減少しました。この結果、売上高は22百万円（前年同期比39.5%減）となり、営業損失は14百万円（前年同期は営業損失17百万円）となりました。

③その他の事業

その他の事業では、スクール事業などにより売上高2百万円（前年同期比92.3%減）、営業損失2百万円（前年同期は営業利益0百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、7,414百万円となり、前連結会計年度末より377百万円増加しました。主な要因は、当第1四半期連結会計期間より連結子会社とした株式会社ザ・システムの総資産の増加などによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」）は、第2四半期連結会計期間末より327百万円増加し1,211百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、117百万円（前年同期は43百万円の使用）となっております。主な要因としましては、売上債権の減少額77百万円、減価償却費71百万円の計上等による増加と、賞与引当金の減少額89百万円等の減少によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により得られた資金は、211百万円（前年同期比52.0%増）となっております。主な要因としましては、定期預金の預入及び払戻による純収入209百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、2百万円（前年同期比99.4%減）となっております。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、152百万円であります。

なお、当第3四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因についての分析

当社グループは、建築・測量・土木の各種CADソフトウェアの開発及び販売を主たる業務とし、またこれらのソフトウェアに関連する情報機器の販売も行っております。当社グループが販売するソフトウェアの用途は、建築・測量・土木の専門分野に特化しており、建築・測量・土木CADソフトウェアの販売実績の合計は、当第3四半期連結会計期間における総販売実績の88.0%を占めております。このことにより、当社グループの経営成績は建設業界の動向に影響を受ける可能性があります。

当社グループといたしましては、これらの状況を踏まえて、従来のユーザーの顧客満足度向上に邁進し、そのニーズを新商品にフィードバックさせることで、さらにユーザーニーズに合致した高付加価値商品を生み出すことが可能になるものと考えております。今後は、これまでのユーザーを大切にしつつ、新規顧客の囲い込みに取り組んで参ります。そのためには、経営理念やステークホルダー共存共栄の精神を順守しつつ、アライアンス戦略にも積極的に取り組む所存です。

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループにおける資金使途としましては、主たる事業がソフトウェア関連であることから、ロイヤリティの支払い、開発部門の人件費が中心となる研究開発費、販売費及び一般管理費、配当金や税金の支払いなどとなっております。また、将来的な資金需要としましては、現在の主たる事業の拡大や新規事業への参入などが具体化した場合に新たな資金需要の発生が予測され、これらの資金需要が生じた場合、内部資金で手当てし、必要な場合には、銀行の借入により資金調達を行うこととしております。

自己株式取得につきましては、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を可能にするため、必要と判断した場合、市場環境、当社の財政状態を鑑みながら行っていきます。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末において計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数 (株) (平成21年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成22年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,295,000	13,295,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	13,295,000	13,295,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成21年10月1日～ 平成21年12月31日	—	13,295	—	1,631	—	2,861

(5) 【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成21年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成21年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 1,806,800	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 11,484,500	114,845	—
単元未満株式	普通株式 3,700	—	1単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	13,295,000	—	—
総株主の議決権	—	114,845	—

② 【自己株式等】

平成21年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
福井コンピュータ株式会社	福井県福井市高木中央1丁目2501番地	1,806,800	—	1,806,800	13.59
計	—	1,806,800	—	1,806,800	13.59

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高（円）	295	300	310	374	336	327	320	315	313
最低（円）	258	264	283	293	302	300	270	251	271

（注） 最高・最低株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員の状態】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表については監査法人トーマツによる四半期レビューを受け、また、当第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表については有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

なお、監査法人トーマツは、監査法人の種類の変更により、平成21年7月1日をもって有限責任監査法人トーマツとなっております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,557	820
受取手形及び売掛金	988	1,006
有価証券	10	10
商品及び製品	35	46
仕掛品	8	13
原材料及び貯蔵品	52	54
その他	141	219
貸倒引当金	△5	△5
流動資産合計	2,789	2,164
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,939	1,971
土地	1,147	1,003
その他（純額）	67	86
有形固定資産合計	※1 3,154	※1 3,062
無形固定資産		
のれん	30	—
その他	92	138
無形固定資産合計	122	138
投資その他の資産		
投資有価証券	767	778
その他	588	899
貸倒引当金	△8	△6
投資その他の資産合計	1,347	1,671
固定資産合計	4,624	4,872
資産合計	7,414	7,036

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20	69
1年内返済予定の長期借入金	10	—
未払法人税等	51	26
前受金	1,130	1,078
賞与引当金	50	82
その他	479	369
流動負債合計	1,741	1,626
固定負債		
長期借入金	78	—
長期未払金	144	144
その他	25	—
固定負債合計	248	144
負債合計	1,990	1,771
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,631	1,631
資本剰余金	2,861	2,861
利益剰余金	1,733	1,607
自己株式	△771	△771
株主資本合計	5,455	5,329
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△53	△67
為替換算調整勘定	—	4
評価・換算差額等合計	△53	△63
少数株主持分	22	—
純資産合計	5,424	5,265
負債純資産合計	7,414	7,036

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	4,732	4,657
売上原価	1,030	946
売上総利益	3,702	3,710
販売費及び一般管理費	※1 3,771	※1 3,429
営業利益又は営業損失(△)	△69	281
営業外収益		
受取配当金	10	7
受取保険金	13	8
その他	19	23
営業外収益合計	42	40
営業外費用		
支払利息	—	1
為替差損	9	—
貸貸費用	6	—
投資事業組合運用損	21	—
その他	0	0
営業外費用合計	38	2
経常利益又は経常損失(△)	△64	319
特別利益		
関係会社出資金売却益	—	5
特別利益合計	—	5
特別損失		
固定資産除却損	3	1
投資有価証券評価損	90	—
事業撤退損	—	57
特別損失合計	93	59
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△157	265
法人税、住民税及び事業税	27	41
法人税等調整額	71	97
法人税等合計	98	138
少数株主利益	—	1
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△256	125

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
売上高	1,449	1,473
売上原価	346	328
売上総利益	1,102	1,144
販売費及び一般管理費	※1 1,222	※1 1,122
営業利益又は営業損失(△)	△120	22
営業外収益		
受取配当金	2	2
受取保険金	2	2
その他	2	6
営業外収益合計	7	10
営業外費用		
支払利息	—	0
為替差損	7	—
貸貸費用	3	—
その他	0	0
営業外費用合計	11	0
経常利益又は経常損失(△)	△123	33
特別利益		
関係会社出資金売却益	—	5
特別利益合計	—	5
特別損失		
固定資産除却損	1	1
事業撤退損	—	2
特別損失合計	1	4
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△124	34
法人税、住民税及び事業税	10	△10
法人税等調整額	△44	48
法人税等合計	△34	38
少数株主損失(△)	—	△0
四半期純損失(△)	△90	△3

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△157	265
減価償却費	237	206
賞与引当金の増減額(△は減少)	△146	△33
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△38	—
投資有価証券評価損益(△は益)	90	—
売上債権の増減額(△は増加)	544	21
たな卸資産の増減額(△は増加)	△156	18
前受金の増減額(△は減少)	85	39
その他	△96	74
小計	362	591
利息及び配当金の受取額	15	15
利息の支払額	—	△1
法人税等の支払額	△147	△22
営業活動によるキャッシュ・フロー	230	582
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△595	△611
定期預金の払戻による収入	780	800
有形固定資産の取得による支出	△65	△12
無形固定資産の取得による支出	△34	△16
投資有価証券の取得による支出	△305	—
投資有価証券の売却による収入	32	39
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△83
その他	3	59
投資活動によるキャッシュ・フロー	△184	174
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	△30
長期借入金の返済による支出	—	△4
自己株式の取得による支出	△405	△0
配当金の支払額	△278	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△683	△35
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△637	720
現金及び現金同等物の期首残高	1,178	490
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 541	※1 1,211

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	<p>当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)</p>
<p>1. 連結の範囲に関する事項の変更</p>	<p>(1) 連結の範囲の変更 平成21年4月1日の株式取得に伴い、㈱ザ・システムを第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。また、福申情報システム(上海)有限公司は当第3四半期連結会計期間において、持分の全額を売却したため連結の範囲から除外しております。</p> <p>(2) 変更後の連結子会社の数 1社</p>

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
※1 有形固定資産の減価償却累計額は、2,867百万円 であります。	※1 有形固定資産の減価償却累計額は、2,718百万円 であります。

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額 は次のとおりであります。 給与手当 1,035百万円 賞与引当金繰入額 28 研究開発費 587	※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額 は次のとおりであります。 給与手当 1,062百万円 賞与引当金繰入額 33 研究開発費 517

前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額 は次のとおりであります。 給与手当 339百万円 賞与引当金繰入額 28 研究開発費 211	※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額 は次のとおりであります。 給与手当 352百万円 賞与引当金繰入額 33 研究開発費 152

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結 貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年12月31日現在) (百万円)	※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結 貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年12月31日現在) (百万円)
現金及び預金勘定 881 有価証券勘定 10 預入期間が3か月を超える定期預金等 △350 現金及び現金同等物 541	現金及び預金勘定 1,557 有価証券勘定 10 預入期間が3か月を超える定期預金等 △356 現金及び現金同等物 1,211

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成21年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 13,295千株

2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式 1,806千株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)

	建設業系 CAD事業 (百万円)	メディカル フィットネ ス事業 (百万円)	I T ソリューシ ョン事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	1,381	2	37	27	1,449	—	1,449
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,381	2	37	27	1,449	—	1,449
営業利益又は営業 損失(△)	74	△55	△17	0	1	△121	△120

当第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

	建設業系 CAD事業 (百万円)	メディカル フィットネ ス事業 (百万円)	I T ソリューシ ョン事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	1,448	—	22	2	1,473	—	1,473
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,448	—	22	2	1,473	—	1,473
営業利益又は営業 損失(△)	140	—	△14	△2	123	△101	22

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

	建設業系 CAD事業 (百万円)	メディカル フィットネ ス事業 (百万円)	I T ソリューシ ョン事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	4,570	6	66	88	4,732	—	4,732
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	4,570	6	66	88	4,732	—	4,732
営業利益又は営業 損失(△)	607	△197	△74	△6	329	△398	△69

当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

	建設業系 CAD事業 (百万円)	メディカル フィットネ ス事業 (百万円)	I T ソリューシ ョン事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	4,443	—	199	14	4,657	—	4,657
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	4,443	—	199	14	4,657	—	4,657
営業利益又は営業 損失(△)	655	△44	42	△18	635	△353	281

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品
建設業系CAD事業	建築CADソフトウェア、測量CADソフトウェア、土木CADソフトウェア等
メディカルフィットネス事業	フィットネス機器、その他ジム用機器等
I Tソリューション事業	選挙出口調査システム、てなわん宿泊予約、CAD以外のシステム開発等
その他の事業	CADスクール等

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結会計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）並びに前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結会計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）並びに前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(有価証券関係)

当第3四半期連結会計期間末（平成21年12月31日）

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当第3四半期連結会計期間末（平成21年12月31日）

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第3四半期連結会計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第3四半期連結会計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
1株当たり純資産額 470.17円	1株当たり純資産額 458.36円

2. 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額 20.56円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純利益金額 10.94円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)(百万円)	△256	125
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失(△)(百万円)	△256	125
期中平均株式数(千株)	12,489	11,488

前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額 7.42円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純損失金額 0.32円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
四半期純損失(百万円)	90	3
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失(百万円)	90	3
期中平均株式数(千株)	12,203	11,488

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年2月2日

福井コンピュータ株式会社
取締役会 御中

監査法人 トーマツ

指定社員
業務執行社員 公認会計士 上 楽 光 之 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 市 川 育 義 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている福井コンピュータ株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、福井コンピュータ株式会社及び連結子会社の平成20年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年2月1日

福井コンピュータ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 上 楽 光 之 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 市 川 育 義 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている福井コンピュータ株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、福井コンピュータ株式会社及び連結子会社の平成21年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。